

Open place

ceremony 2004.12.4

平成16年度 日本財団助成事業：自活訓練棟等の建築



本自転車振興会助成事業

平成16年度作業棟（知的障害者）の建築整備補助事業

土と炎
陶芸棟



社会福祉法人 当麻かたるべの森





平成16年度日本自転車振興会助成事業 「作業棟（知的障害者）の建築整備」完了



ろくろ形成室と窯場



家庭的な雰囲気づくり

建設場所：北海道上川郡当麻町中央4区（かたるべの森） TEL：0166-84-2862
 種 目：作業棟（陶芸棟） FAX：0166-84-2867
 構 造：木造 平屋建
 建築面積：142.73m²
 延床面積：124.51m²

主要各室面積

風除室：4.97m² ホール：13.66m² ろくろ形成室：31.68m²
 作品形成室：19.88m² 窯場：8.37m² 食堂：23.19m² 静養室：8.28m²
 押 入：0.83m² WC：7.86m² 洗面、脱衣室：3.31m² 風呂場：2.48m²

活動内容

当法人では「入所施設によらない施設づくり」をテーマに、知的な障がいを持つ施設利用者の日中活動の場、或いは福祉的就労の場を拡充し、陶芸という授産作業種目の拡充による選択肢の広がり、ゆとりのある作業環境の整備をします。また、自由な発想で自己表現していける陶芸活動を目指します。

さらに、地域の小学生をはじめ各種団体・地域住民全般の文化活動に貢献できるよう、陶芸教室等の文化講座を開催して障がい者と触れ合える場である「陶芸工房」を実現し、障がい者理解が広がるような地域福祉活動の拠点づくりと繋げていきたいと考えています。

事業費総額：15,368,955円

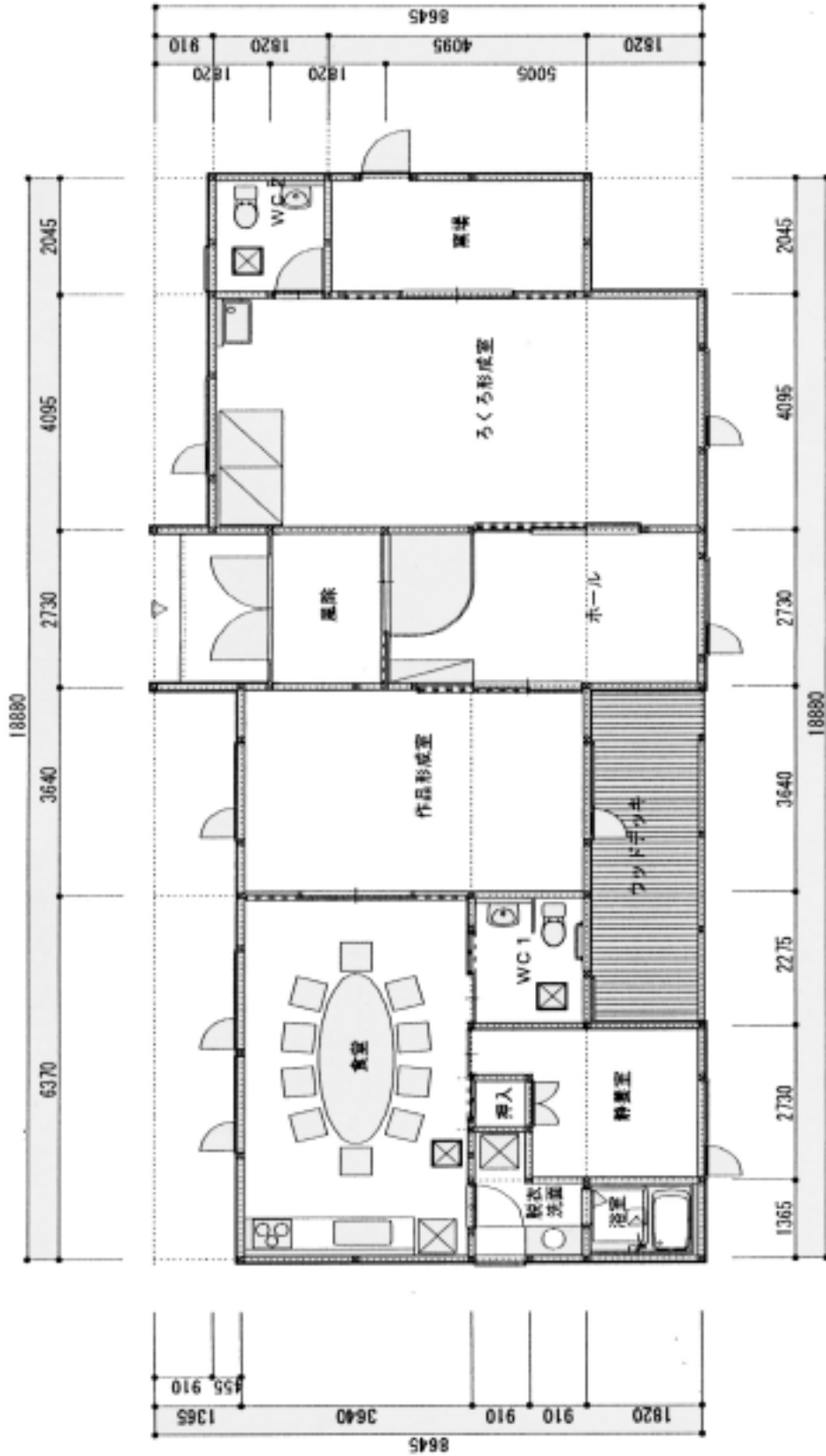
【収入】

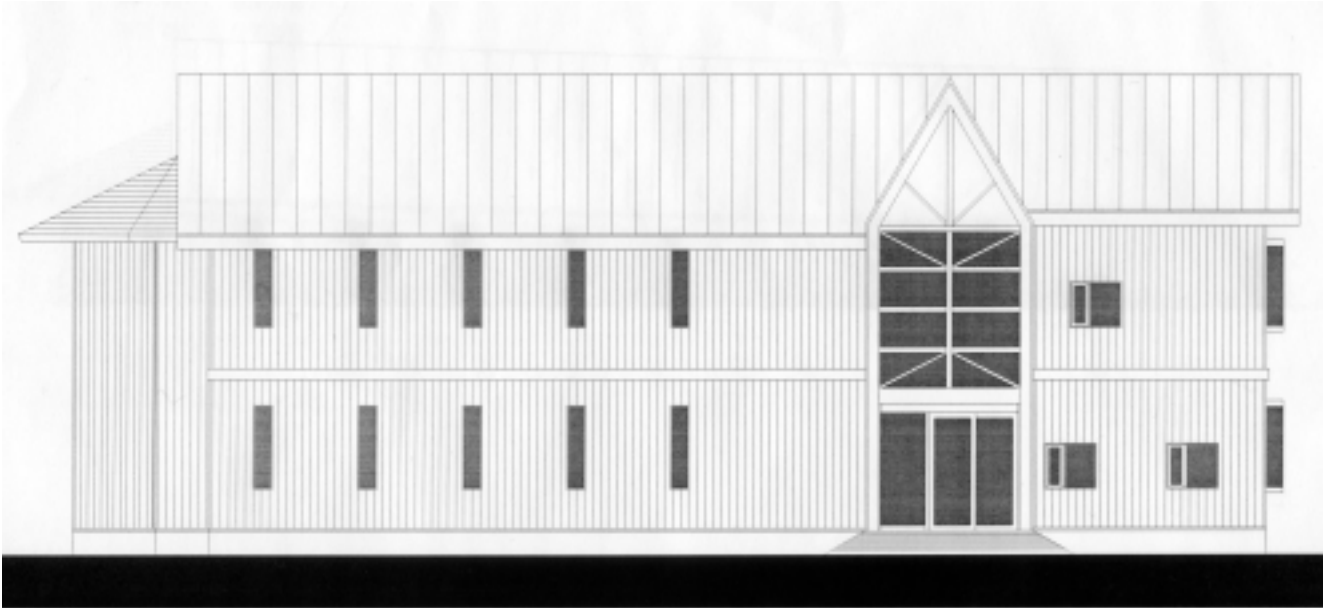
(1) 日本自転車振興会補助金：11,482,000円
 (2) 自己負担額：3,886,955円

【支出】

(1) 建築主体工事費：12,967,500円
 (2) 設計管理費：525,000円
 (3) 機械設備(窯)：1,876,455円

棟芸炎と土陶





自活訓練棟（かたるべホール）の趣旨

ミュージックセラピストの池田千鶴子さんと当法人のつながりは、当法人が森の構想を打ち出す以前からであり、法人副理事長の横井氏が以前施設長だった頃からという十数年の長いお付き合いとなります。そんな池田さんの、「森にコンサートホールを建てましょう」という熱い一言から始まった計画が、かたるべホール（千鶴子メモリアルホール）です。また、一步、森の構想への夢がふくらみますね。

1. 各種イベントの開催を行い、地域の方に利用してもらうことで地域の活性化を図ります。また、地域住民の方の要請に応じて施設を開放し、社会資源のひとつとして貢献します。

2. 絵画・創作教室や織物教室の開催を年12回実施し、地域住民とメンバー及びスタッフが「同じ地域で暮らす者」としての交流ができる環境を整備します。

定員：絵画創作20名・織物10名 2ヶ月でメンバー交代予定

3. 障がい者の地域生活へ向けて、長期宿泊体験を実施：利用者20名全員がグループホームで生活できるようになってもらうため、毎月、宿泊体験を行います。

4. 各種研修会の実施により、地域住民や障がい者との交流を深める。ピープルファースト北海道や北風の会等当事者の会との交流年3回実施

講演・勉強会：旭川・上川管内中心に年5回実施

5. 池田千鶴子氏によるミュージックセラピーの実施

ハーブによるセラピー年5回の実施：対象は旭川・上川管内の自閉症及び知的障がい者

社会福祉法人当麻かたるべの森 基本理念

(1) 入所施設ではない地域居住の実践を

当麻町の通所施設設置の基本的な理念は「入所施設ではなく、地域で暮らす」ということにつきます。北海道の町村において、入所施設中心で通所施設が発展しなかったのは、人口規模が小さく、地理的に広域であることと、さらには「家庭からの通所の負担」が大きいということが最も大きな理由であったと思われます。平成元年に知的障がい者の地域居住を保障する「グループホーム」制度（知的障害者地域生活援助事業）が発足したことにより、私達はこのグループホームを活用することで、従来のように入所施設による福祉ではなく、地域で生活し、地域で働き、活動するという地域福祉の理念の実現を図ろうとするものです。

このことを具体的な実践として示すことが出来れば、日本の知的障がい者福祉は障がい者本人の願いに添ったものとなり、ノーマライゼーションの理念の実現が飛躍的に進むと言えます。

(2) 労働の場と創造的で芸術活動の場としての活動の場(通所授産施設)を

従来の通所授産施設は「労働」を強調するあまり、活動の内容が企業の下請け作業であったり、また、生産中心であるため、知的障がい者にとっても過重の負担を強いる結果となり、比較的重度の障がいを持つ人にとって利用しにくい現実になっているといえます。

また、施設が単に障がい者の「作業場」になっている実情から、地域の人にとっても親しみがもてず、地域住民との関係が極めて希薄な存在になっています。

一方、障がい者にとっては、労働における生産中心の場として優先されるあまり、他の活動の場となっていないのが現実です。私達は通所施設が、障がいを持つ人のさまざまな活動を保障する場として機能を持たせることも重要であると考えます。そこで、当麻町が設置する通所授産施設は障がい者の「芸術活動」としての機能や、地域との交流も重要な活動の一環と考え、住民との交流の場としての機能を持ち、地域交流の場としての「コミュニティセンター」の役割を果たせることを目的とした、施設の建設と運営を目指したいと思えます。

(3) 地域活動の拠点としての施設づくりを目指します

通所授産施設が社会資本の不足する地域の資源として、建物自体が地域との交流の場となるような設計思想を持つことがまず必要なのだと思います。地域の住民が、サークル活動や自分達の趣味の活動、更には芸術文化の活動ができるような建物にすることによって、施設がハードの面でも地域の拠点となることが出来ます。当麻町の施設はまず建物から障がい者施設のイメージを変えていきたいと考えます。つぎに、利用者の作業種目とする木工、陶芸、織物、絵画芸術活動を地域にも開放し、町とも協力して、それぞれの活動を生かした「文化講座」を開催したいと思います。施設の持っているマンパワーや建物を生かして、地域の文化に寄与できる施設づくりをすることが、障がいをもつ人の理解につながりますし、そのことがノーマライゼーションの理念の具体的な実践につながると思えます。

当麻町が設置する施設は、従来の福祉施設の閉鎖的で、市民社会とはかけ離れた存在の障がい者福祉を、地域で暮らすことを基本に、地域単位で考えることによって、「創造的」で「親しみ」のある存在とする初めての試みであるとさえいえるものです。

平成13年度事業計画より

ギャラリーかたるべプラス事業内容

- (1) パン工房(森のぱんやさん) 販売時間午前11:00から午後4:30(定休日:土・日・祝日・第1月及び火曜)
天然酵母はあたりまえ!メンバーが成型まで関わり、体にいいおいしいパンを提供します。
- (2) 木工房(フォレストかたるべ木工房)
額縁を中心とした作品ですが、世界に一つしかないデザインや独創性を持った作品も提供します。平成14年には、森の方へ作業棟を建設していきます。
- (3) さをり織り(天衣無縫)
おおらかに、なにものにも捕らわれないメンバーの感性で織り上げた作品を提供します。
- (4) 喫茶店(まあってんばご~) 営業時間午後1:30から午後4:30(定休日:土・日・祝日・第1月及び火曜)
パンと紅茶を中心とした憩いの場を提供します。
- (5) ギャラリー営業時間及び営業日はイベントに合わせます。
障がいを持つ方の芸術作品紹介をメインに、一般の方にも開放していきます。
- (6) 陶芸活動・・・17年度より少しづつ開始していく予定です。

